

平成 20 年 度 教 育 研 究 業 績 書

氏 名 植 野 浩 三

最終学歴	1978年 3 月 奈良大学文学部史学科 卒業			
取得学位	文学士			
所属学会	日本考古学協会、日本文化財科学会、考古学研究会、日本エコミュージアム研究会、日本ミュージアムマネジメント学会、全日本博物館学会、遺跡学会			
現在の専門分野	日本考古学、博物館学			
研究課題	古墳時代手工業生産の展開、韓国窯業史の調査、歴史（遺跡）博物館の動向			
【研究上の特記事項】				
平成20年度は奈良大学在外研修制度を利用して、1ヶ年間韓国にて調査研究に従事した。韓国の窯業遺跡の資料を中心として、韓国内の手工業関連資料の調査、資料収集を行う。また、韓国内での諸研究会に参加し、研究報告も行う。				
【教育上の特記事項】				
奈良大学博物館2007年度冬季企画展の撤収、及び反省会（2008.4）の実施。在外研修国（韓国）にて、本学学生の見学案内を計3回行う。				
【社会的活動】				
日本文化財科学会評議委員 兵庫県丹波市文化財審議委員 韓国HANSHIN大学校博物館特別研究員				
【学内活動】（学内職歴を含む）				
在外研修（韓国）のためなし。ただし、研修中に協定締結校である韓瑞大学校、韓国伝統文化学校を各2回ずつ表敬訪問し、交流した。				
著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
（著書） 2008年度第5回埋蔵文化財調査研究員教育	共	2008年8月	（社）韓国埋蔵文化財調査研究機関協会	韓国若手の発掘調査員のための研究手引き書である。そのうち「9.日本の窯跡調査法と須恵器研究」を担当し、窯跡の発掘調査と研究方法、および日本の須恵器研究の現状について紹介した。
（学術論文） 韓国の土器窯集成（1）-京畿道・忠清道編-	単	2009年3月	文化財学報第27集	韓国京畿道・忠清道の窯跡や窯業生産と日本の窯跡および須恵器生産との比較を行い、共通点や相違点について紹介した。
（学会発表） 日本における須恵器生産の開始と渡来人	単	2009年2月	第59回忠南大学校百済研究公開講座	韓国京畿道・忠清道の窯跡や窯業生産と日本の窯跡および須恵器生産との比較を行い、共通点や相違点について発表した。

(その他) 講演 須恵器生産の開始と 展開	単	2008年7月	韓国・湖南文化財研 究院	第13回湖南文化財研究院招聘講 演会(三国時代外来土器理解と 検討シリーズ) 日本の須恵 器生産研究を紹介し、韓国との 関係について考えた。
日本の窯跡調査法と 須恵器研究	単	2008年8月	(社)韓国文化財調 査研究機関協会	若手の発掘調査員のための研修 会である。窯跡の発掘調査と研 究方法、および日本の須恵器研 究の現状について、講義(200 分)する。
最近の日本考古学の 動向と考古学専攻者 の進路	単	2008年11月	龍仁大学校文化財学 科	同じ文化財学科を有することか ら、奈良大学文化財学科の紹介 と専攻生の進路について説明 し、日本考古学の動向を講義し た。
韓国百済・馬韓の土 器窯と日本の須恵器 窯	単	2009年1月	済州文化遺産研究院 (於:済州博物館)	韓国の窯跡・窯業生産と日本の 窯跡および須恵器生産の紹介を 行い、窯業の基本について講演 した。
韓国と日本の土器窯 と日本の須恵器生産	単	2009年2月	蔚山文化財研究院	第13回招聘講演会。韓国の窯 跡・窯業生産と日本の窯跡およ び須恵器生産の紹介を行う。ま た須恵器編年についての講義を 行う。
韓・日の土器窯と日 本の須恵器生産	単	2009年3月	韓国環境考古学研究 所(高麗大学校)	韓国の窯跡・窯業生産と日本の 窯跡および須恵器生産の紹介を 行う。また須恵器編年について の講義を行う。
韓・日の土器窯と日 本の須恵器生産	単	2009年3月	HANSHIN大学校	韓国の窯跡・窯業生産と日本の 窯跡および須恵器生産の紹介を 行う。また須恵器編年について の講義を行う。